

ハウスプラス住宅保証（東京都）の社長に6月26日付で就任した後藤博氏は、売り上げ規模を5年くらいの間に倍増したいとの考えを示した。現在新築住宅に関する事業が全体の9割くらいあるが、ストック型ビジネスへの拡大と瑕疵担保責任保険法人として国の制度に基づいた事業を中心にしてきた。ここから、一步範囲を広げて周辺の事業も取り込んで売上高100億円、新築とストック事業が半々か6対4程度をイメージする。後藤社長に社長就任の抱負を聞いた。

当社は昨年、設立15周年を迎えた。これまで新築住宅に関する事業も深堀していくつもりだ。同事業は基礎としての瑕疵担保責任保険や性能評価機関としての性能評価や長期優良住宅に関するサービス



ハウスプラス住宅保証社長

後藤 博氏

住宅の定期点検を事業化

ただ、今後住宅市場は新築住宅が減少し、ストック型のサービスが求められてくる。今、まさにストック型事業に手を付けていく時期で、その一つが昨年から開始した「住宅の点検サポート」だ。長期優良住宅の維持提供を始めている。点

ただ、今後住宅市場感があるとか、住宅会社が自社で点検する体制を持つより効率が良い場合もある。検査員のネットワークとツールを有効活用して、今までのノウハウを生かして開発した商品で、全国を視野に構築していく。

ただ、性能評価とその他のサービスを一体構築していく。

ただ、性能評価とその他のサービスを一体構築していく。

新築からストックへ拡大を目指す

第三者点検により信頼

保全計画にある点検を、当社の検査員のネットワークを活用して引き受けている。うもの。第三者的な立場で点検をして、その結果に基づいて住宅会社が施主にリフォームなどの提案を行う。これまで住宅会社が自分で点検していたが、社で点検したが、結果に基づいて住宅会社が施主にリフォームなどを提案する。

ただ、性能評価とその他のサービスを一体構築していく。

ただ、性能評価とその他のサービスを一体構築していく。